

## 海外紹介

## 第3回国際経穴部位標準化に関する非公式諮問会議報告



2004年10月12~14日

於：明治鍼灸大学、京都、日本

形井秀一、篠原昭二、浦山久嗣、香取俊光

小林健二、河原保祐、坂口俊二

(第二次日本経穴委員会作業部会)

## I. 参加者

## 1. WHO (WPRO=西太平洋地域事務局)

- (1) Dr. Choi Seung-Hoon (崔昇勲)  
Responsible Officer of Traditional Medicine,  
Medical Officer, Regional office for the west-  
ern pacific
- (2) Professor Nigel Wiseman  
English Lecturer, Chang Gung University

## 2. China (中華人民共和国)

- (1) Professor Wang Xuetai (王雪苔)  
Honorary President, World Federation of  
Acupuncture and Moxibustion (WFAS)
- (2) Professor Huang Longxiang (黄龍祥)  
Director, Department. of Science Research,  
Institute of Acupuncture and Moxibustion,  
China Academy of Traditional Chinese Medi-  
cine
- (3) Ms. Situ Wen (司徒穩)  
Department of International Cooperation  
State Administration of Traditional Chinese  
Medicine (SATCM)

## 3. Republic of Korea (大韓民国)

- (1) Professor Kang Sung-Keel (姜成吉)  
Department. of Acupuncture and Moxibustion,  
College of Oriental Medicine, Kyung Hee Uni-  
versity

- (2) Professor Kim Yong-Suk (金容爽)  
Department. of Acupuncture and Moxibustion,  
College of Oriental Medicine, Kyung Hee Uni-  
versity

- (3) Dr. Lee Hye-Jung (李惠貞)  
Graduate School of East-West Medical Sci-  
ence, Kyung Hee University

- (4) Professor Yim Yun-Kyung (任允卿)  
College of Oriental Medicine, Dae Jon Uni-  
versity

## 4. Japan (日本)

- (1) Professor Shuichi Katai (形井秀一)  
Department of Acupuncture, Tsukuba Col-  
lege of Technology

- (2) L.Ac. Kenji Kobayashi (小林健二)  
Guest Researcher, Department of Medical  
History, Oriental Medicine Research Center,  
Kitasato Institute

- (3) L.Ac. Hisatsugu Urayama (浦山久嗣)  
Meridian Therapy Association

- (4) Professor Shoji Shinohara (篠原昭二)  
Department of Basic Oriental Medicine,  
Meiji University of Oriental Medicine

- (5) Lecturer Shunji Sakaguchi (坂口俊二)  
Kansai College of Oriental Medicine

- (6) L.Ac. Yasuhiro Kawahara (河原保祐)  
Japan Acupuncture and Moxibustion Asso-  
ciation

## II. 経緯と会議

2004年3月17・18日に北京で開催されたWHO第2回経穴部位国際標準化に関する非公式諮問会議において、経穴部位の決定に関する考え方や方法などについて検討され、使用文献や骨度法、解剖学的基準点、経穴部位の表記方法などが決定された。

これを受けて日本では2004年4月に第二次日本経穴委員会が発足し、5月より作業部会による経穴部位の検討が始まった。作業部会は、委員長に形井秀一氏、副委員長に篠原昭二氏、委員長推薦で浦山久嗣氏、日本理療科教員連盟から香取俊光氏、日本鍼灸師会から河原保裕氏、東洋療法学校協会から坂口俊二氏、日本東洋医学会から小林健二氏が選出され、会を構成した。

まず、作業部会ではWHOが標準経穴と定めた361穴について、各委員が担当して、中国、韓国が定めている部位・取穴が日本のものと異ならないかを検討した。その結果、92穴について異論ありとして取りまとめた。それを持って、2004年10月12-14日に京都の地でWHO第3回経穴部位国際標準化に関する非公式諮問会議が開催された。

3日間の議案は、日本が異論を唱えた92穴について1穴ずつ検討し、同意案を作成することであった。92穴のなかには、異論というよりは疑問、確認すべき事項ありという経穴も含まれており、それらについては容易に同意できたが、なかには全く部位が異なる経穴もあり、本報告では、その中から幾つかについて問題点と論点を挙げることにする。

## III. 検討事例

肺経で問題になったのは、上腕部の経絡走行であった。日本の天府、侠白は上腕二頭筋の筋溝を通るという意見に対し、中国、韓国は前腕の陰経の走行と古典の記載をもとに上腕二頭筋の橈側を通ることを主張した。中国、韓国案が決定となり、日本案は付記されることとなった。太淵は、韓国案の手関節遠端横紋の上5分が付記されることとなったが、問題点は動脈拍動の橈側取るか、尺側取るか、という点であった。これについては

橈側で同意し、また反関の脈に対する取穴法も表記することが決定した。

大腸経では、合谷が日本の第1・2中手骨底間の陥凹部か、中国、韓国の第2中手骨の中央橈側か、について問題となり、中国、韓国案で決定した。肘髁については、上腕骨の外縁か、高さは1寸か、で各国の意見がかみ合わず保留・再検討となった。

胃経では、頬車については下顎骨から内に入ることで3か国一致したが、その方向と寸度（8分入るか）については、保留・再検討となった。髀関は、3か国とも部位が僅かに異なり、また古典の「伏兎後、交分中」の解釈が3か国で異なり、保留・再検討となった。

脾経については、大都、太白の部位は3か国で一致しているものの、古典とは異なっている点が問題となった。しかし、そのことを明記することで問題なしと判断された。公孫は、日本の太白の後1寸の陥凹部、中国の第1中足骨底の前縁、韓国の第1中足骨基底の前下縁と異なり、日本は特に足長12寸を骨度の規定に加えるよう意見を述べたが、臨床的ではないとして、韓国案で決定した。衝門は、恥骨上縁から外方で、鼠径溝中の動脈拍動部を取ることは同意に至ったが、外方への寸度（3.5寸しくは4寸）を付記することは再検討となった。

小腸経の天窗については、日本の胸鎖乳突筋の前縁に対し、中国、韓国の後縁で議論になったが、日本が中国、韓国案に同意した。

膀胱経の天柱については、部位は3か国で一致したが、表現について後髪際か第2頸椎棘突起を用いるのか、筋肉外縁が明瞭でないのか、筋肉ではなく、分寸で表記した方がよいとの韓国案もあり、再検討となった。委陽については古典とは異なっていたが、3か国で同意した。秩辺は、古典に二十椎下と二十一椎下の説があるが、二十一椎下の第4仙椎棘突起下外方3寸で3か国同意した。飛陽の‘陽’は‘揚’と表記することが決定し、部位については腓腹筋の外縁かヒラメ筋との間かは再検討となった。僕参は、日本、中国は寸度の記載なし、韓国は崑崙の直下1.5寸と意見が別れたが、基準を崑崙にし、「崑崙の直下、踵骨の外

側で赤白肉際」で同意決定した。京骨は中国、韓国が第5中足骨粗面の前下方、日本が後下際で意見が別れたが、日本が中国、韓国に同意した。

腎経の湧泉は、3か国で部位が微妙に異なるため、保留・再検討となった。また、足趾を曲げて一番陥凹する部位について実測再調査となった。照海は、日本、中国は内果の頂点を基準としているが、韓国は内果下縁から直下4分としており意見が異なったが、「内果中央の直下1寸の陥凹部」で3か国が同意した。交信は、日本、中国が復溜の前0.5寸の表記が入っているが、復溜は基準穴でないことから、韓国の「足の内果中央から上2寸、脛骨後縁」で同意した。

心包経の曲沢は、古典とは異なっていたが、3か国で同意した。労宮は、第3中手骨の橈側（中国、韓国）か尺側（日本）かで意見がまとまらず、保留・再検討となった。中衝も労宮の部位が関連してくるので同様に保留、再検討となった。

三焦経の瘰脈は、3か国の部位は概ね一致したが、解剖学的な表現が困難なため、保留・再検討

となった。頷厭は、中国、韓国が一致、日本の部位とは大きく異なっており、日本案の付記は決定したが、再度、日本側は中国、韓国案に沿えるよう再検討することとなった。

胆経の環跳は、中国、韓国が一致。日本は再検討することとなった。膝関は中国、韓国が一致。陰陵泉の後ろか前かを日本は再検討することとなった。

督脈経の長強、水溝は、3か国の意見が一致せず、保留、再検討となった。

以上、検討内容の概要を示したが、古典の記載を大事にしながらも、臨床的な部位への変更もかなり多く含まれており、その分、議論も活発になった。日本側には多くの宿題が残ったが、来年の第4回本会議（韓国）に向けて、一歩ずつ進んでいかなければならない。各国とも聞く耳を十分に持っていることから、次回はさらに進むことが期待できる。国際統一に向けて漸く実践モードに入ってきた。

表 今回検討された非同意経穴の一覧

手太陰肺経 (5)	天府	俠白	尺沢	太淵	魚際														
手陽明大腸経 (6)	合谷	温溜	曲池	肘髎	臂臑	肩髃													
足陽明胃経 (16)	頰車	頭維	人迎	不容	承滿	梁門	水道	归来	氣衝	髀關	伏兕								
	犢鼻	三里	豐隆	解谿	衝陽														
足太陰脾経 (5)	大都	太白	公孫	箕門	衝門														
手少陰心経 (1)	少海																		
手太陽小腸経 (1)	天窓																		
足太陽膀胱経 (12)	睛明	眉衝	曲差	絡却	天柱	殷門	委陽	秩辺	飛揚*	僕参	金門								
	京門																		
足少陰腎経 (6)	湧泉	然谷	照海	水泉	交信	築賓													
手厥陰心包経 (4)	天泉	曲沢	労宮	中衝															
手少陽三焦経 (4)	中渚	四瀆	肩髎	瘰脈															
足少陽胆経 (22)	頷厭	懸釐	曲髻	懸顛	天衝	浮白	完骨	本神	目窓	正營	風池								
	日月	帶脈	五枢	維道	居髎	環跳	風市	中瀆	足腰関	陽交									
	外丘																		
足厥陰肝経 (6)	膝関	曲泉	陰包	五里	陰廉	期門													
督脈経 (4)	長強	瘰門	神庭	水溝															

※：飛陽の‘陽’は‘揚’の字に統一することとなった。

□で囲んだ15経穴については、表現ではなく部位の再検討を行うこととした。

## IV. 今後の会議の予定

## ① 2005年3月 (北京)

第1回ワーキンググループによる部位の検討。  
各国代表1名。

## ② 2005年5月 (韓国)

第4回国際経穴部位標準化に関する非公式諮  
問会議。経穴部位標準化最終案の決定。

## ③ 2005年7あるいは8月 (マニラ)

第2回ワーキンググループによる英訳最終案  
作成。  
各国代表1名。

## ④ 2005年から2006年にかけて

最終案を世界各国の学会等に検討依頼。  
各国の意見を集約。

## ⑤ 2006年3月 (未定)

国際経穴部位標準化に関する公式会議。

## Foreign Introduction

### Third Informal Consultation Meeting on Development of International Standard Acupuncture Points Locations

12-14 October 2004, Meiji University of Oriental Medicine  
KYOTO, JAPAN

KATAI Shuichi, SHINOHARA Shoji, URAYAMA Hisatsugu  
KATORI Toshimitsu, KOBAYASHI Kenji, KAWAHARA Yasuhiro,  
SAKAGUCHI Shunji

The "Third Informal Consultation Meeting on Development of International Standard Acupuncture Points Locations" was held between October 12th and 14th, at Meiji University of Oriental Medicine in KYOTO. We, the Second Japan Acupoint Committee, hosted the Kyoto meeting. We will present a report on the meeting.

We discussed in detail the ninety two controversial acupuncture points in dispute between Japan, Korea and China. After the discussion, of the ninety two controversial acupuncture points we agreed on the location of seventy seven acupuncture points and we will be researching the remaining fifteen acupuncture points for the next meeting. The next meeting will be held in the beginning of May, 2005 at Souel, Korea.

Zen Nippon Shinkyu Gakkai Zasshi (*Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion, JJSAM*) 2004; 54(4): 785-788